

2019年世界認定推進の日

6月9日は「世界認定推進の日(World Accreditation Day)」です。認定活動の理解と国際相互承認の普及・活用を高める目的で、ILAC(国際試験所認定協力機構)とIAF(国際認定フォーラム)によって定められたもので、今年で12回目になります。今年のテーマは『Accreditation: Adding Value to Supply Chains(認定: サプライチェーンの価値を高める)』で、認定がサプライチェーンの役割に付加価値を加えることに焦点をあてています。

認定制度は、世界のGDPの96%を占める経済圏を網羅していると推定されており(出典: ILAC/IAF共同声明)、認定によって信頼できる第三者の証明性、公平性、そして適合性評価機関間の整合性がもたらされます。国境をまたぐ世界規模のサプライチェーンでは、認定制度の重要性は益々高まっています。今回のテーマについて幅広い層の企業、政府、規制当局、消費者へもっと深く理解いただくことを目的に世界100か国以上で関連のワークショップやセミナーも開催されました。イベントを通じ認定の価値についてさらに広く認知されていればと期待します。過去12回分を含め、

詳細はIAFのホームページをご参照ください。
(https://www.iaf.nu//articles/World_Accreditaion_Day/374)

新セミナーのご案内

前号でご紹介させていただきましたSDGsに関するセミナー「ISO14001を活用したSDGsセミナー」の開催予定が決まりましたのでご案内いたします。

最近よく耳にするようになってきたSDGs(エス・ディー・ジーズ: 持続可能な開発目標)は、2015年9月の国連サミットで採択された国際目標で、17の目標と169のターゲットで構成されています。パリ協定やESG(環境・社会・ガバナンス)投資の拡大など、企業を取り巻く情勢は急激に変化しており、これからの企業には、中長期的な視点で社会のニーズを重視した経営戦略と事業展開が求められます。そこで、経営リスクの回避とともに、新たなビジネスチャンスのツールとして注目を集めているのがSDGsです。本セミナーでは、SDGs各目標の解説に加え、ISO14001を活用したSDGsへの対応についても解説します。8月から来年2月までの開催予定がありますので、ご興味のある方

は弊社ホームページをご参照いただくか、お気軽に弊社研修部までお問合せください。

GLOBALG.A.P. 基準文書のバージョンアップについて

2019年2月1日にGLOBALG.A.P.基準文書のバージョン5.2が公表されました。それに伴い、現行のバージョン5.1での審査は2019年7月末までとなり、2019年8月1日以降、バージョン5.2での審査が必須となります。

最新のドキュメントはGLOBALG.A.P.本部のホームページから入手可能ですが、バージョン5.2は現在、英語の原文のみが公開されており、日本語版の公開にはもう少しばかり時間がかかる見込みです。英文はこちらからご覧いただけます。
([https://www.globalgap.org/uk_en/documents/#fq=con_locales:\(%22en%22+OR+%22ja%22\)&fq=gg.document.type:\(%22regulations%22\)](https://www.globalgap.org/uk_en/documents/#fq=con_locales:(%22en%22+OR+%22ja%22)&fq=gg.document.type:(%22regulations%22)))

8月以降に審査を受けられるお客様は、変更点が書かれたこちらの資料を参考にご準備を進めてくださいますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、食品認証部(03-3669-7420)までお問い合わせください。

Q&A

お客様からいただきましたご質問についてご紹介いたします。

Question

先日、インターテックの内部監査員研修に参加した同僚から、ISO19011という内部監査に関する規格があると聞きました。どういうものでしょうか？

Answer

ISO19011(マネジメントシステム監査のための指針)は、監査の原則、監査プログラムのマネジメント、マネジメントシステム(MS)監査の実施など、MS監査のあらゆる側面に関する手引き、また、MS監査に関わる要員の力量評価のための手引きを提供しているガイドライン規格で、昨年、ISO19011:2018として最新版が発行されました。

ISO19011:2018の主な構造(一部のみ抜粋)は以下の通りとなっております、内部監査実施に大変役立つものとなっております。

4. 監査の原則
5. 監査プログラムのマネジメント
 - 5.5.4. 監査チームメンバーの選定
6. 監査の実施
 - 6.5.1. 監査報告書の作成
7. 監査員の力量及び評価
 - 7.6. 監査員の力量の維持及び向上

今回の改訂では、ISO9001やISO14001の2015年版規格

が考慮され、リスクに基づく監査のアプローチが新しく監査の原則として追加されたほか、遠隔監査、仮想の活動や仮想の場所の監査など、情報通信技術を利用した監査についての手引き、リーダーシップの監査に関する手引きなど、さまざまな手引が拡充されています。

また、附属書A.9.「リーダーシップ及びコミットメントの監査」の項では、監査員は、トップマネジメントが自分の義務、特に組織のマネジメントシステムの有効性に関する義務をどの程度果たしているかが確認できる客観的証拠を探さなければならないとされ、リーダーシップとコミットメントについては、トップマネジメントだけではなく、全ての階層の管理層を監査対象とすることが望まれるようになっており、中間管理層の監査を奨励しています。ご興味がある方はこういったガイドラインも追加でご利用いただくのもいいかと思います。(参照: IRCAテクニカルレポート: https://japan.irca.org/membership/technical_guide.html)